

## 鶴見大学仏教文化研究所紀要第11号・雑纂

雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	11
ページ	197-207
発行年	2006-04
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1646/00000445/">http://id.nii.ac.jp/1646/00000445/</a>



# 平成十七年度 仏教文化研究所活動報告

## 〔第一回運営委員会〕

日時 平成十七年四月五日（火）午後四時～

場所 六号館二階 共同研究室

内容 ○平成十七年度予算の確認

○平成十七年度事業計画（公開シンポジウム開催）承認

○平成十七年度所員の役割分担承認

○所員・顧問委嘱の承認

所員：関 幸彦（本学文化財学科教授）

顧問：高崎 直道（鶴見大学名誉教授）

○研究員の委嘱の更新承認

木村清孝氏、佐藤達全氏、計良隆世氏

参加者 柳澤慧二所長、矢島道彦主任、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野真知郎所員、

岩橋春樹所員、石田千尋所員、小林恭治所員、尾崎正善所員

〔第二回運営委員会〕

日時 平成十八年二月九日（木） 十二時～

場所 六号館二階 共同研究室

内容 ○ 仏教文化研究所新規事業を検討・承認

鎌倉市と提携し、鎌倉仏教・文化財の調査・研究を担うことの推進を検討

参加者

柳澤慧二所長、矢島道彦主任、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野真知郎所員、関 幸彦所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、小林恭治所員、尾崎正善所員

〔第二回運営委員会〕

日時 平成十八年三月二日（木） 十六時～

場所 六号館二階 共同研究室

内容 ○ 仏教文化研究所新規事業を検討・承認

○ 平成十八年度予算（案）の確認

○ 平成十八年度事業計画承認

紀要の発行、「公開シンポジウム」の開催

鎌倉市との研究協定の推進等

○ 平成十八年度研究員の委嘱の更新承認

木村清孝氏、佐藤達全氏、計良隆世氏

○平成十八年度所員の役割分担承認

参加者 柳澤慧二所長、矢島道彦主任、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野真知郎所員、関 幸彦所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、小林恭治所員、尾崎正善所員

〔公開シンポジウム開催〕

日時 平成十七年六月十一日（土）午後一時～

場所 鶴見大学会館地下階 メインホール

メインテーマ 『曹洞宗教団の展開』―下野山川長林寺を中心として―

〔報告〕

対話集会

「異宗教間の対話と交流 ―メッターナンド師とバツツイ神父を迎えて―」

○日時 平成十七年十月七日（金）午後一時半～午後三時

○会場 図書館会議室

○参加者 メッターナンド比丘（医学博士、タイ王室仏教ホスピス財団アドバイザー、チェラロン  
コン大学医学倫理委員会委員）、マウロ・バツツイ神父（イタリア人修道士、タイ国在住）、齋藤和  
佳子氏（名古屋日伊協会）、齋藤信義猯下（大本山總持寺副貫首）、納富常天本研究顧問（總持寺  
宝物館館長）、柳澤慧二所長、矢島道彦主任、石田千尋所員、尾崎正善所員、小林恭二所員、藤盛

〈概要〉

タイのメッターナンド比丘とイタリア人修道士マウロ・バッツイ神父を本学に招いて、研究所の主催で標記の対話集会を開催した。概要は以下の通り。

(一) 本学所蔵貴重史料の紹介

対話・交流の促進の一助とするために、会場内に本学所蔵の貴重史料を展示した。とくにカソリックの歴史に関わる「長崎ロザリオ組合信徒署名とマリア像」について、石田所員の作成した解説資料をもとに詳しい紹介を行った。バッツイ神父は、これに対して日本のキリシタン世紀の歴史への強い関心を示すとともに、ローマ市のカサナテンセ図書館に残される関連文書の調査や、また右の史料にある墨書（ラテン語とみられる）の解明などに、今後協力したいと申し出られた。

(二) ブッダの死の原因をめぐって

メッターナンド比丘は近年、パリ三蔵の新たな批判的研究に取り組み、ロンドンのパリリ聖典協会の機関誌（第二六巻・二〇〇〇年）に論文を発表するなど、精力的な活動を行っているが、とくに自ら医師の立場で、「ブッダの死の原因」についてテキストの分析を試みた論考が注目を集めている。今回の集会でも、このブッダの伝記の重要な部分を扱ったペーパーを読み上げて、非常に興味深い自説を開陳した。

周知の通り、ブッダの死因をめぐっては学界で長い論争の歴史がある。しかもいまだに決着はついていない。とくに問題となってきたのは、ブッダの最後の旅を描いたパリリ涅槃経（『マハーパリニツバーナ・スッタナンタ』）のなかで、鍛冶工チュンダが最後に供養した食事の成分内容を表示する「ヘスーカラ・マッダヴァン」とい

う語の意味内容をめぐっての問題で、テーラヴァーダ仏教（すなわち南方仏教）の伝統では、一般にこの語を「柔らかな豚肉」と解するのに対して、一方の北伝仏教では、漢訳經典において「梅檀耳」（梅檀樹に生えたキノコ）と訳されるなど、広い意味で何らかの植物と捉えられてきた。この解釈上の不一致が、仏教におけるいわゆる肉食・非肉食の思想論争と相俟って、激しい論議を巻き起こしてきたものである。ちなみに、この問題について故・中村元博士（元研究所顧問）は、豚肉とするのは通俗的な語源解釈に過ぎないとされ、パーリ注釈文献のなかにもタケノコ、キノコ、葉草などとする解釈も見られることを根拠に、最終的には「キノコ」説を支持された。師の宇井伯寿博士は「有毒のキノコ」と主張していたが、中村博士によると、嗅覚の鋭い豚に探させる「トリユッフ」の類いではないかとされる。

メッターナンド比丘は、こうしたヘスーカラ・マッダヴァをめぐる旧来の論争とは一線を画し、医師として臨床的な立場から、經典が記述しているブッダの病状を冷静に分析する。經典によれば、ブッダはチュンダの差し出した食物をとって、たちまち下痢を伴う急激な病いに罹ったとされるが、メッターナンド医師によれば、じつはそれ以前、数ヶ月前から、明らかに「加齢」によると見られる諸症状がいくつもブッダには表われているという。その代表的な症例は、ヴェーサーリー近郊で最後の雨安居（雨季の定住）に入った時点で説かれており、「恐ろしい病いが生じ、死ぬほどの激痛が起こった」とされる。このときブッダは、「わたしはもう古い朽ち、齢をかさね老衰し、人生の旅路を通り過ぎ、老齢に達して、わが齢は八十となった」と述懐し、自身を「革紐の助けによってやっと動いている古ぼけた車」に喩えたというのも、仏教徒にとってはなじみ深い逸話である。

以下の議論の詳細は省くが、メッターナンド比丘の方法論は、仏伝を彩る神話や超自然的なエピソードと、

それ以外のものを選び分けて、純粹に臨床的な立場から經典を読むことである。その作業によって抽出される「診断」(diagnosis)の結果、ブツダの晩年は「加齢」による諸症状が進行し、ついに八十年の人生の旅の終極を迎えたと結論する。問題のヘスカー・マッダヴァンについても、その語義はともかく、下血を伴うような病状が「食中毒」から引き起こされることはない述べ、ここでも「加齢」による腸間膜の梗塞、剥離などに要因が求められると結論づけている。

伝統説を重んじるタイの保守的な仏教界からは、右のような所見に対して強い反発もあるというが、欧米の諸学者、なかでも仏教文献学の泰斗であるオスカー・フォン・ヒニューバーからの支持を得て、メッターナンド師は自説への自信をいよいよ深めているものと見られる。海外の研究者に自説を披瀝して、さらに支持を広げたいという、そうした思いが滲み出ていた今回の発表であった。鍛治工チユンダや随侍者アーナンダに、一切の責任を押し付けるような単純な食中毒Ⅱ死因説は、少なくとも公平な經典の読み方ではないであろう。經典の成立時期や神話的な要素の扱いなど、さまざまな検討すべき問題がなお残されているにせよ、「医師の眼」で仏典を読み解き、学界に一石を投じたメッターナンド比丘の所見には、充分傾聴すべきものがあり、同じ医師の立場から柳澤所長によって賛意が表明されたゆえんでもあろう。

報告の終わりに、対話集会の開催に機縁を与えられ、当日もご臨席くださった齋藤信義副貫首猊下に心より感謝申し上げます。(なお、当初予定されていたバツツイ神父の発表「キリスト教の実践」は都合でキャンセルとなった。)

(主任 矢島道彦記)

## 研究所概要

〔所在地〕 〒二三〇八五〇一 横浜市鶴見区鶴見二丁目三 鶴見大学内

TEL 〇四五五八一―〇〇一 FAX 〇四五五七四―〇二二五

(担当事務部：文学部事務部庶務課)

〔所長〕 柳澤 慧二 鶴見大学学長 (生理学)

〔主任〕 矢島 道彦 短期大学教授 (宗教学)

〔所員〕 大三輪 龍彦 文学部教授 (日本史)

永田 勝久 文学部教授 (化学)

河野 眞知郎 文学部教授 (文化人類学・考古学)

関 幸彦 文学部教授 (歴史学)

石田 千尋 文学部教授 (美術史)

岩橋 春樹 文学部教授 (美学・美術史)

小林 恭治 文学部教授 (日本語)

尾崎 正善 文学部助教授 (宗教学)

関根 透 歯学部教授 (倫理学)

〔研究員〕 木村 清孝

佐藤 達全

計良 隆世

〔顧問〕 高崎 直道 (鶴見大学名誉教授)

納富 常天 (大本山總持寺宝物殿館長)



# 鶴見大学仏教文化研究所規程

## (設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

## (目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

## (研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行なう。

- 一 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究などの基本的研究
- 二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- 三 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- 四 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- 五 所員の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- 六 その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

## (研究部門)

第四条 研究所に、次の2研究部門を置く。

一 仏教学研究部門

二 仏教教育研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(所員)

第六条 研究所の教員は、専任のほか、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員の中から所長が委嘱する。

二 研究所の職員（教員を除く。以下この項において同じ。）は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(研究員)

第七条 研究員は、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員以外の者から、所長が委嘱する。

二 研究員の任期は一年とし、更新することができる。

(顧問)

第八条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(運営委員会)

第九条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第一〇条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他をもってこれに充てる。

(規程の改廃)

第十一条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行なうものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

平成十一年四月一日一部改正

# 仏教文化研究所 購入資料 二〇〇四年

「図説」蘇るバーミヤーン…アフガニスタンに刻まれた不滅の文化遺産

同朋舎メディアプラン 一冊

『維摩經』『智光明莊嚴經』—梵文写本影印版— 大正大学出版会 全五冊

BDK English Tripitaka Numata Center for Buddhist

Translation and Research 三冊

道元禪師全集 第二巻 春秋社 一冊

スサノオ信仰事典 戎光祥出版 一冊

無文全集 第五〜十六巻 禅文化研究所 全十二冊

前田惠學集 第三巻 山喜房佛書林 一冊

真宗史料集成 第一〜十三巻 同朋舎メディアプラン 全十三冊

真言宗全書 一〜四十四 高野山大学出版部 全四十四冊

宗門葛藤鈔 一〜四 菱屋孫兵衛 全四冊

新纂大日本統藏經 第一巻〜九十巻 国書刊行会 全九十冊